

「無情の世界」

柳澤協二著「検証・官邸のイラク戦争」のページをめくっていると、見覚えのある英文を発見。驚いたことに、ローリング・ストーンズの名曲、邦題「無情の世界」の歌詞だった。

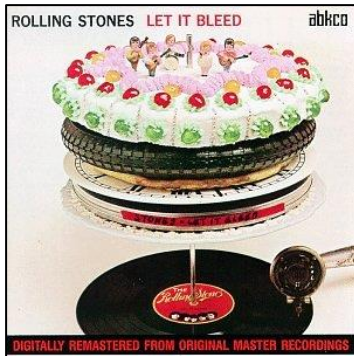
“You can't always
get what you want,
but you will get
just what you need”

柳澤氏は、これを
「(アメリカの)思い

通りにはならなくとも(アメリカにとって)必要なことはなんとかしてやるさ」と理解していた、と言う。それが、国力に格差のある日米間の健全な同盟関係を維持するための鉄則なんだ、とまで記している。

防衛官僚として、米国政府との交渉中、氏の前頭の中で、この曲が流れていたんだ。嬉しい！ずっと“ロックファン”な私にとっては。柳澤さんから背中を押された気がする。「今の君でいいんよ。このまま進みたまえ。」ってね。

(神戸市東灘区 50代 山田 章)



記録・記憶に残さないと

「記録に残さなければ、“記憶”に残らない。記憶に残らなければ、人は再び過ちを犯す」——もとは誰の言葉なのか、どなたか知っている人がいれば、教えていただければ嬉しいのですが、けだし名言ではないでしょうか。

「大きいウソはバレない」「ウソは100回いえば、本当になる」——ナチスが得意とした宣伝戦略です。70年前の無条件降伏によって、歴史の表舞台から退場させられたはずの軍国主義なのに、さる東洋の敗戦国では「歴史修正主義」のもと、息を吹き返してきています。「南京大虐殺はなかった」「従軍慰安婦などは幻だ」などと騒ぐ人たちがいて、しきりに「記録がない」「証拠がない」などと、言い募ります。

それを思えば、草の根から「記録と記憶に残す」取り組みは、とても大事なことです。「人々の記憶を呼び覚まし、過ちを繰り返さないため」にも。



(田所 明治)

芦屋「九条の会」10周年記念のつどい

激論！「憲法9条」

あなたは平和についてどう考えますか？

日時:5月16日(土)13:30 開演

場所:芦屋ルナ・ホール

講師:柳澤協二さん(元内閣官房副長官補)

川上高司さん(拓殖大学教授)

ご冥福をお祈りします

「九条の会」の呼び掛け人で憲法学者の奥平康弘さんが1月26日、ご逝去されました。

昨年11月24日の「九条の会」全国集会では、憲法学者の立場から9条の大切さを訴え、パレードの先頭に立つなど積極的に行動されていました。

私達は遺志を継いでいきます。

カンパにご協力有難うございます

年末にお願いいたしましたカンパに、ご協力をいただき本当に有難うございました。芦屋「九条の会」は、憲法9条を守り生かすため、10周年記念のつどいやニュースの発行、学習会などを引き続き行います。今後ともよろしくお祈りします。

今回の後藤健二さんの死に、心から哀悼の気持ちを捧げます。心優しく、ジャーナリストとして中東の人々にも貢献していた方がこのような結果になったのはまことに残念です。

代表 福間 公子